

case
9

ホテルにおけるエレベーターの行先階情報提供

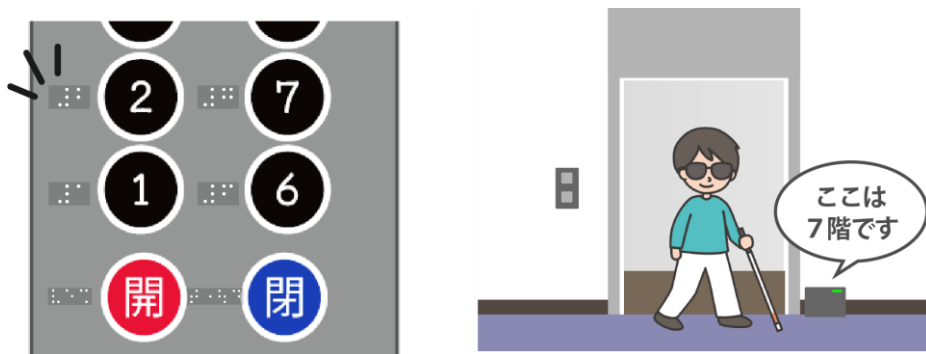
【状況】

- ・エレベーターの行先階ボタンに点字および数字の凹凸が無い
- ・エレベーターに音声案内の機能が無い
- ・時折、視覚障害のお客様もご宿泊になられるが.....



【対応方法の一例】

- ・行先階ボタンの横に点字もしくは触ってわかる凹凸の数字シールを貼りましょう。
- ・各階のエレベーターを降りたすぐ脇の壁にも同様のシールを貼ります。
- ・エレベーターの扉が開き、お客様が降りてすぐ目的の到着階かどうかを判断できるよう、シールの位置（左右・高さ）を事前に説明しておくのも忘れずに。
- ・扉の開いた階が何階かを知らせる方法としては、上記のような壁にシールを貼るよりも、可能なら視覚障害のお客様が宿泊している間だけでも、「〇〇階です」と繰り返し音声が出る装置を置く方がベターかもしれません。



Point!

エレベーターのリニューアル工事は負担が大きいとしても、各階エレベーター横で音声を流すのは検討できるのではないのでしょうか。

これはあくまでも一例です。必ずこうしなければならない、というものではありません。それぞれに合ったより良い方法を、皆さまで話し合ってみてください。

